

施設・事業所における障害者虐待防止チェックリスト 集計結果 (気になる回答箇所について)

B 職員セルフチェックリスト

		できている	できていない
6	利用者の意見、訴えに対し、無視や否定的な態度をとらないようにしている。	34	7
		はい	いいえ
11	特定の利用者に対して、ぞんざいな態度・受け答えをしてしまうことがある。	10	32

※一定数の職員が、自分自身か事業所の利用者への支援や関わりについて課題があると認識している。

13	他の職員のサービス提供や利用者への対応について問題があると感じることがある。	25	14
16	他の職員が利用者に虐待と思われる行為を行っている場面にでくわしたことがある。	10	28
17	他の職員が利用者に虐待と思われる行為を行っている場面を容認したこと(注意できなかったこと)がある。	9	28

※この3項目について、非常に気になる結果が出ている。

- ・ 今回のセルフチェックでは、どんな状況でどんな行為か具体的な場面や状況等の把握はできないが、直接支援を行う3事業所ともに、一定数の回答があっている。
- ・ 特に、No.16、No.17の回答が事実なら、育成会事業所でも虐待が起きていることになる。
- ・ 今後、事業所ごとに職員への聞き取りまたはアンケート(記述)による状況確認を行い、次回(次年度)の本委員会で報告するようにしたい。
- ・ 見て見ぬ振りや黙認は虐待の温床となる。「虐待と思われる行為」を見たならば止める勇気を、それが難しいなら上司への報告がほしいところ。
- ・ 「虐待と思われる行為」については、虐待防止や人権などの研修の実施による人権意識の向上、風通しのよい職場環境づくりなどにより、防いでいかなければならない。

18	最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みをもち続けている。	18	21
19	最近、特に仕事にやる気を感じないことがある。	14	26
20	最近、特に体調がすぐれないと感じることがある。	10	21

※昨年度の本委員会の資料として、厚生労働省作成の「職業性ストレス簡易調査票」でのストレスチェックを実施したが、その結果、全事業所で8人の職員が「高ストレス者」と判定されるなど、非常に気になる結果が出た。

今回も、各事業所で「悩みをもち続けている」「やる気を感じない」「体調がすぐれない」と回答した職員が一定数いた。

今後も、誰もが「働きやすい・働きがいのある職場環境づくり」に向けて、事業所単位、法人全体としても具体的な対策を立てて取り組む必要がある。

C 自己点検シート スタッフ用

		はい	いいえ
5	安全のために行う身体拘束は虐待にあたらぬ	13	11

※解説にあるように、安全のために行う身体拘束であっても、「緊急やむを得ない」場合を除き身体拘束は禁止されている。

「緊急やむを得ない場合」とは、「切迫性」「非代替性」「一時性」の3つの要件を満たし、かつ、それらの要件等の手続きが極めて慎重に実施されている場合をさす。

15	職員の働きやすさに関する改善に向けた事業所としての取組みがある	10	10
----	---------------------------------	----	----

※今後も、誰もが「働きやすい・働きがいのある職場環境づくり」に向けて、事業所単位、法人全体としても具体的な対策を立てて取り組む必要がある。

18	虐待まではいかないが、不適切な支援があると思う	19	19
----	-------------------------	----	----

※「B 職員セルフチェックリスト」のNo.13, 16, 17と同様、どんな状況でどんな行為かは不明だが、職員自身が「不適切な支援」と捉えている。

23	他の職員が見ていない状況だと、利用者への対応がぞんざいになることがある	7	15
26	子どもに対してするような対応や言葉かけがある	14	14

※利用者への支援や関わりについて、自分自身か事業所について課題があると認識している。

今後とも、支援に関する基本的な姿勢や質を高めることが大切となる。

支援スキルの向上に向けての対応として、各事業所で「支援マニュアル」を作成し、支援に関する一定の共通原則の共通理解に努めることなどが考えられる。